

潮騒通信「どっこい生きてます！」

「遊び」こそが生き物の命を育む糧

梅雨まっさかりです。曇天と雨模様が続き、気圧の変化や急激な温度差で疲労や倦怠感、眠気が抜けません。でも、この時期の雨は夏の水不足解消や農作物の成長には欠かせません。潮騒 JTC でもファイザー社の助成による農業プロジェクトが2年目に入り、農業隊メンバーは天気予報に人一倍敏感になっています。既報どおり今年は、専門家の指導を受けて野菜としての青パパイヤづくりに取り組んでいます。地元支援農家の心強い後押しで進めています。ここにきて試練を迎えています。定植した苗の根付きが悪く、今後成長していく歩留まりがどのくらいになるか予断を許しません。専門農家によれば1~2割の失敗は普通だそうで、潮騒の場合は土壌改良に十分な時間をもたせなかったからではないかとの見立てです。「開墾した土地を遊ばせておくのはもったいない」として春先にジャガイモを植え、5月下旬の収穫後に急ぎ遅れを取り戻そうと定植しました。本来なら、半年ぐらいじっくりと微生物の助けを借りて土づくりに励むべきだったようです。一見無駄に思える「遊び」こそが生き物の命を育む糧となるのだと思い知りました。

できる手立ては施したので、後は青パパイヤの自然な成長力と回復力を信じるしかありません。考えようによっては、これはダルクの在り方に似ています。少し前までダルクでは「3:3:3:1の法則」がありました。施設にとどまって回復できるのはよくて全体の3割、精神科病院や刑務所などを何度も往復するのが3割、施設を出て行方知れずが3割、残り1割が事故や自殺で死んでいく仲間です。今は比率が変わっているかもしれませんが、これに行政が絡むと「回復率3割では話にならない。助成を望むなら（税金を使うので）6、7割に上げるように」と厳しい指導が入ることでしょう。

でも、この3割は依存症者にとって重たい数字です。この国でゼロからスタートしたダルクで「3割も助かっていく」のは奇跡で、ヤク中・アル中にとって「希望の数字」なのです。今や全国のダルクの大半はNPO法人化されています。それによって公的な信頼が高まるに連れ、回復実績を気にしないではいられなくなっています。でも、第1世代のダルクは少数ながら任意団体のままで、建前や形式に囚われないダルク本来の流儀にこだわっています。どこも苦しい台所事情ですが、その代わり地域に優れた人材を得て強固な支援会が根付いています。潮騒はNPO法人を柱にしていますが、これとは別に多様な機能と顔付きを持つ非組織的な団体でありたいと考えています。それだけに依存症をきちんと理解してくれる地域の人たちによる支援会のようなものを、そろそろ求めたいところです。（施設長 栗原 豊）

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2013（平成25）年

6月号 一部100円

Contents

- P1 「遊び」こそ生き物の糧
- P2 潮騒の農業が繁忙期
- P3 パパイヤ栽培が始動
- P4 サツマイモづくりに挑戦
- P5 ジャガイモ初めて収穫
- P6 施設の話あれこれ
- P7 我が回復記・3~サカ
- P8 近藤氏インタビュー14
- P9 全国受刑者からの便り
- P10 続・受刑者便り&俳壇
- P11 しおさい俳壇・特選句
- P12 行事予定&献金献品



初の農産物直売（青空野菜市）を開き、好評でした=記事4頁

繁忙期迎えた潮騒農業プロジェクト

＝ジャガイモ収穫、青パイヤの定植、青空野菜市＝

潮騒ファイザープロジェクトで取り組む一連の農作業が、1年で一番の繁忙期を迎えています。プロジェクトで開墾した畑（潮騒青塚農場）ではジャガイモの収穫を終え、間髪を置かずにプロジェクトの“目玉”となる青パイヤを植えました。今のところ生育状況は芳しくありませんが、なんとかものになればと悪戦苦闘の日々です。一方、前年いち早く開墾した潮騒猿田農場では引き続きサツマイモを植え、今年は本格的な収穫を目指します。地元農家の熱い支援を受けて、今回新たな農業隊メンバーも加わって夏野菜づくりも本格化しています。試行的ながら農業生産物の野外販売にもチャレンジし、PRとともに一連のノウハウを身につけようと参加メンバーは張り切って取り組んでいます。(み)



北限の青パパイヤ栽培がスタート ～開墾地の青塚農場で苗の植え付け～

潮騒 JTC の青塚農場でジャガイモ収穫を終えた直後の5月23日、茨城県が北限となっている青パパイヤの植え付けが始まりました。前々日の21日に同農場で実ったジャガイモを収穫し、翌日には整地するなどの急ピッチでの準備作業を経て、この日の植え付けとなりました。

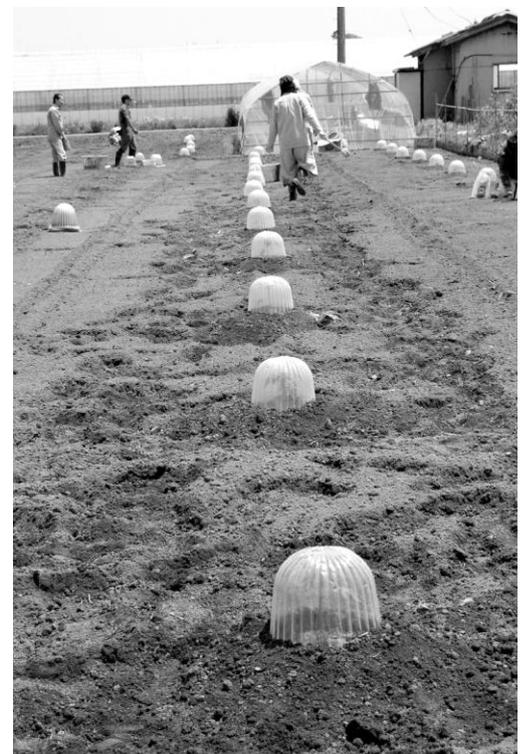
用意した青パパイヤの苗は100本。まずは植え付け前に「恵みの菌」を畑に散布。手順は青パパイヤ植え付け用の穴を掘り、水を撒き、青パパイヤの苗の根っこ部分を水に浸してから苗を穴に入れます。そして土をかぶせ、水と殺菌剤を撒き、風除け用のプラスチック製ポットを上からかぶせ、周りを土で囲います。

農業自然隊の仲間たちは、苗の植え付け班と防風フェンス取り付け班の二手に分かれて作業を始めました。植え付け班は3人1組で、あらかじめ教わった通

りに青パパイヤの苗を一つずつ丁寧に植えていきました。一方、フェンス取り付け班は、建築廃材の鉄パイプなどを再利用してフェンスの骨組みを作り、防風ネットを青パパイヤ畑の区画周辺に張り巡らせました。

植えられた青パパイヤは順調に成長すれば約4mほどの高さに成長し、秋頃には収穫の予定です。青パパイヤの苗の植え付けを担当したハナさん(50)は「楽しかった。今日が初めて」と、農作業に初参加した感想を話し、「大変なことは無かった。動く仕事が好きなもので、体を動かせて良かった」と話してくれました。防風フェンスの取り付けを担当したヨシハルさん(63)は、「本来は機械、電気(工事)のほうなので、職業柄慣れている」と手際良く取り付け工事を行いました。

(崎)



※その後、定植した青パパイヤは2~3割が根腐れで駄目になり、新たに苗を追加しました。指導を受ける那珂パパイヤ農場とこまめに連絡をとりながら、農業自然隊メンバーが追肥を施すなどして生育を見守っている状況です。

猿田農場は今年もサツマイモづくりに挑戦

鹿嶋市猿田の潮騒 JTC「猿田農場」で5月23・24日の2日間にわたり、前年の取り組みに引き続きサツマイモの苗の植え付けが行われました。2012年度のファイザープロジェクトのメイン事業として荒れ地を開墾して整備した畑地約990平方メートルの広いサツマイモ畑に、今年は約3000本の苗を定植。初めての取り組みだった昨年は潮騒の仲間たち全員で苗を植えたのですが、農作業に不慣れな仲間も少なくなかったため、苗がきちんと根づかず、「3分の1が風で飛んだ」ということがありました。このため今年は確実に苗を根付かせようと、農作業経験者を中心に定植作業を進めました。同じ頃に潮騒青塚農場で青パパイヤの植え付け作業が行われていたため、少数精鋭5人での作業となりましたが、炎天下の中でも頑張って作業を終えました。担当した農業自然隊のメンバーからは「(植え付けは)丁寧に行っている。昨年とは意識が違う」との意気込みが聞かれました。(功)



野菜市を初開催～農産物の売れ行き好調

潮騒青塚農場で採れた新ジャガイモなどを販売する「潮騒青空野菜市」が6月1日、鹿嶋市平井の「ぼんどう太郎」鹿嶋店内駐車場で開かれました。販売されたのは青塚農場で採れたジャガイモをはじめ、鹿嶋市内の農家から提供されたミニトマト、ピーマン、ダイコン、ミニダイコン、ホウレンソウの全7種類。いずれも「1つ100円」と破格の値段で販

は量り売りも行いました。開店すると、近所の皆のほか、「ぼんどう太でに立ち寄りしました。ダイコンが午前中で完 トマトやピーマンなどは仕事が一段落した ト従業員たちも野菜を「初めてだから(知人からない」と、知人に



売したほか、ジャガイモ。午前10時頃からさんが買い求めに訪れ「ぼんどう太郎」の来店客も食事ついでこのため用意したミニ売したのをはじめ、ミニが相次いで完売。午後「ぼんどう太郎」の買い求めに来ました。(に)電話を掛けないと分野菜市の件を電話で告

知するなど、野菜市運営に協力してくれた吉岡いくさん(76)は「毎回やるようになると(お客が)来るようになる」とアドバイスしてくれました。用意した野菜はほぼ完売、野菜市運営に当たったヒトシさんは「(ぼんどう太郎)店長の厚意で開催できた。収穫状況を見て定期的開催したい」と意気込みをみせていました。(勝)

潮騒青塚農場でジャガイモ初収穫

潮騒青塚農場で5月21日、ジャガイモの初収穫が行われました。農業自然隊メンバー約20人が畑の地中から大きく実ったジャガイモを掘り起こし、表土の上に乗せて乾燥させる作業に取り組みました。農業指導に当たった鹿嶋市内の農家によると「今年は寒くて、霜が降りたりもした。(ジャガイモの)芽が出るのとは出ないのがあった」ということですが、「上出来」と言ってもいいほどの収穫がありました。

本来は鹿嶋地域では6月がジャガイモの収穫時期なのですが、プロジェクトの柱となる青パイヤの定植が控えていることから、早く収穫できる「早生白(わせしろ)種」のジャガイモを植えたので、5月下旬の早い時期に収穫することができました。

青塚農場では、荒れ地だった当地を開墾して牛フン10ト、米ぬか600キ、油かす400キを投入した上、那珂パイヤ農場が開発した「恵みの菌」を使用するなどして畑地に改良。2月下旬にジャガイモを植え付けて以来、約3カ月を経て初の収穫に漕ぎつけました。無農薬、有機栽培で育てたジャガイモを一つずつ手掘りで掘るのも、手掘りだとジャガイモの皮が剥けないので商品価値が高いとの理由からです。収穫されたジ



ャガイモは大きさごとに選別された上で、10キ箱に入れられ、地元のJAしおさいに出荷されました。また、一部のジャガイモは、青塚農場前で路上販売され、1キ100円で販売されました。

収穫作業に当たったサユリさん(56)は「うれしいですね」と喜びを見せながらも、ジャガイモ収穫後に新たに栽培される青パイヤについては「青パイヤは炒め物にして食べていた。向こう(沖縄)では(栽培は)いいと思うけど、茨城ではどうかな?」と期待と不安が入り混じった表情を見せていました。

農業自然隊の中心メンバーのヒコさん(61)は「ジャガイモの収穫は上出来。初めてだけど、牛ふんなどが入っているから(ジャガイモが)でかいのがある」と満足そう。農業自然隊リーダーのヒトシさん(29)は「荒れ放題だった土地を開墾して収穫できただけに感慨深い。苦労したので達成感を得ている。でも、これからが本番。メイン事業の青パイヤづくりも何とか成功させたい。依存症を抱えながらも農業で自立の道を探りたい。僕たちにはミーティングも大事だけど外の作業も大事。健康で人間らしい生活を夢見て仲間がみんな生き生きと頑張っている」と語りました。(山)

山下園長の話 「イモ掘りよりもジョブの人たちと遊んでもらうことが楽しいみたい。ふだんはなかなか食べないけれど、採れたての新鮮ジャガイモを農場の畑で美味しく頂き、子供たちに良い体験となりました」



保育園児がジャガイモ掘りで歓声
鹿嶋市平井のブー横丁保育園(山下佳子園長)の園児たちが5月下旬、潮騒青塚農場でジャガイモ掘り体験しました。園児たちは、潮騒の仲間と一緒に「見て見て、ジャガイモ掘りに挑戦、あちこちから見て見て、ほらこんなに大きい」などと歓声が上がりました。ジャガイモ掘りを終えた園児たちは、潮騒の仲間が新ジャガイモの塩ゆでの調理をしている間、他の潮騒の仲間たちと豚舎を見学したり、作業用一輪車で遊んだりなどと、大いに楽しんでいました。ジャガイモの塩ゆでが出来上がると、食べた園児たちからは「おいしい」「お代わり」との反応を見せました。参加したテルさん(33)は「子供たちの(相手の)ほうが疲れた。でも楽しいですよ。童心に帰れる」と話しました。

施設の話～フォーラムや集いに参加、NPO総会開く～

●みのわマック感謝の集いに参加～ツカ

東京・板橋区内で6月2日に開かれた「みのわマック 35周年記念・感謝の集い」に参加しました。急ぎで代理での参加でしたが、午前10時過ぎに会場に着くと大勢の仲間がおり、若い仲間が目につきました。受付を済ませ、少し緊張しながら席に着き、もらったコーヒーとチョコでリラックスしました。代表あいさつなどがありましたが、車に揺られたせいか睡魔に襲われてしまいました。昼食休憩では、みのわマックの若い女性たちがAKBの「会いたかったあ…」の替え歌「飲みたかったあ…」を振り付きで歌い、かわいかったです。講演では沖縄から帰って間もない竹内達夫先生(Drでアルコール依存症)が「沖縄が日本で一番アルコール依存症が多い」と指摘したので、「潮騒JTCの茨城はどれくらいの順位かな？」と気になりました。時間はあっという間に過ぎて閉会となり、仲間同士で分かち合いをしていたら、一人の男性が近付いてきて、「自分は茨城出身で潮騒の近くに実家があり、自分も鹿嶋市内に住んでいた」と話してくれました。奇妙な縁を感じ、「また会えるといいですね」と握手とハグをして会場を後にしました。集いは初めての体験でしたが、また参加したいと思いました。

ムでは当事者の体験談や精神科医の話、近藤さんの話、太鼓演奏もありましたが、私は友の姿しか目に入りませんでした。人はなかなか変わることは出来ないと言われます。それを見事に克服した友の顔には笑顔があふれ、幸せそのものでした。その姿に私は勇気・希望・元気をもらいました。川崎DARCフォーラムに行ってもよかったです。「頑張るぞ！」という意欲が湧きました。今度は私が立ち直った姿を友に見てもらいます。

★NPO法人潮騒JTCが総会／事業計画など原案を異議なく承認、議決★

特定非営利活動法人・潮騒ジョブトレーニングセンターの2013年度定期総会が5月25日、鹿嶋市宮中の潮騒JTCデイケア施設で開催されました。前年度の事業報告や今年度の事業計画、決算・予算などが原案通り承認されました。役員の方から現在取り組んでいるファイザープロジェクトに関して評価や期待が寄せられたほか、地元支援会の設立を求める意見も出されました。栗原豊理事長は「農業プロジェクトで潮騒の特徴を出したい」と決意を新たにしました。(み)



●横浜ダルクフォーラムに参加して～ヤマ

6月16日に横浜市の二俣川教会で開かれた「横浜ダルク 23周年フォーラム」に参加させてい、多くの仲間たちとの出会いがありました。ダルクとつながって約14年、久しぶりにあった仲間がよい回復を、「ひょっとして自分も…」と希望が持てました。私は3年6カ月の刑期を務め上げ今年4月に刑務所を満期出所しました。出所の日が近づくにつれ、社会への不安が出て施設長に迎えに来てもらいました。あちこちのダルクに行っているおかげで多くの仲間の知己を得ていますが、クリーンを重ねて施設長

●川崎DARCフォーラムに参加して～ハナ

6月14日の「川崎DARC9周年フォーラム」…そこには昔の友の新しい姿がありました！ 潮騒仲間の誘いを断ることが出来ず仕方なく参加したフォーラムでしたが、行ってみると驚くことばかり。まず参加した人の多さと、みんなの明るい笑顔にビックリ。立派に立ち直った昔の友の姿にも驚きました。フォーラ

になったり、スタッフを務めたり、社会復帰をしていたりと、多くの仲間がこのプログラムで回復している姿を見て、「私ももう一度プログラム(12ステップ)を信じてみよう」と心から思えた1日でした。横浜ダルク代表のトムさん、よいフォーラムをありがとうございました。私もクリーンを大切に「今日一日」を生きていきます。

とからダルク施設長の厚意により、せっかく入寮した山梨ダルクを逃げ出し、元の運び屋(シャブの売人)に転落した私は、寝る間も惜しんで売っては運び、運んでは狂った変態セックスに没頭する生活でした。しかし、曲がりなりにもダルクを経験したことで、そんな堕落した生活に疑問が生まれ、次第に自己嫌悪さえ生まれ始めていたのです。妻と二人で逮捕されて5度目の受刑生活をする際には、ほとんど覚せい剤経験のない妻を“大ポン中”に仕上げたことで、さすがに罪の意識にさいなまれました。自分のせいで一人の女性の人生を狂わせてしまったという反省が重なって、新たなポン中を増やし続ける自分の行為がとても情けなく、自分への否定感情を持つようになりました。

そんな中、生活保護で借りた私の家が日々警察にマークされるようになり、このままではまた刑務所に逆戻りだと怯えました。言いようの無い身の危険を感じ、視界に入るすべての人や建物、車が警察関係者に思え、恐怖で眠れない日々が続きました。もはやシャブの中毒症状は幻覚や被害・追跡妄想となって自分を際限なく追い込んでいたのです。それでも正気に戻っては「俺は一体何をやってんだろう」「何とか環境を変えないと…」と気付き始めたのです。もちろん覚せい剤でボケている頭ですから、そう簡単にまともな思考ができるわけではありません。ただ、ここには書けない程の身の危険を感じていたことは確かです。

ダルクや潮騒 JTC の回復プログラムは自分に正直になることが重要なポイントです。本来なら「ここには

書けない」という理由など無いはずですが、ダルク以外の人も目にする可能性があると思うので、関係者に対する配慮から今はまだ正直に書けない事情をお察し下さい。とにかく生死をさまよう出来事があった、とだけ書いておきます。とにかく「このままでは死んでしまう」と命の危険を感じ、家財道具一式を捨て着の身着のまま逃げ出した山梨ダルクへと助けを求めました。本心から「自分にはダルクが必要だ」とワラにもすがる思いでした。

しかし、救いを求めた山梨ダルクは私の生活保護問題の関係から戻ることができませんでした。その時、私がたまたま横浜にいたことから横浜ダルクと川崎ダルクの連絡先を聞き、川崎ダルクとは連絡がつかなかったのですが運よく横浜ダルクのPさんと電話がつながり、事情を説明したところ、二つ返事でOKしてくれたのです。急ぎ出向くと行くと、「ようこそ横浜ダルクへ」と、ここでも熱いハグで迎えられました。もはや精神的に窮地の状態で苦しんでいた私は、この手放しでの歓迎ぶりに涙が出そうになりました。

余談ですが、私が横浜ダルクを訪ねた日、たまたま退寮した人が一週間後には逮捕されたそうです。逆に逮捕されてもおかしくない私が、ダルクに救いを求めたことでハイパーパワーによって生かされ、入れ違いで退寮されたその人が一週間後に捕まるなんて、まるで自分の荷がその仲間に渡ったように思われ、とても複雑な気分での入寮でした。私の気のせいかもしれませんが、ともかくもこれでダルクに再入寮、横浜ダルクで新たな回復生活が始まりました。(※好評につき、掲載ボリュームを増やしました) =次号に続く

我が回復記

「私もどっかい生きてます」NO3

〜(依存症のサカです)〜

= 6月誕生日の仲間たち =



左からトム・ヒサ・カツ・モトさんII都合で撮影できなかったメンバーもいます

施設からお知らせ



今年の潮騒 JTC 公開フォーラムは11月17日(日)に鹿嶋市の鹿嶋勤労文化会館で開きます。スペシャルゲストスピーカーとして、今話題の元ヤクザの牧師、進藤龍也さんを迎えます。

近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL14

僕らの病気は最終目標が依存の反対の自立だから、自分の足で立って地域社会で生きていくこと

●ルールや常識を持ち込んだら成立しない

一日本の違法薬物対策は司法の対応が絶対で、国家や社会防衛のためには「ダメ。絶対。」。その流れで来ていますが、ダルクはその対極にあって、近藤さんを先頭に本音で問題提起してきました。

近藤 それには説明があるな。最近を外圧が厳しいし、国内犯罪も多様化しているけど、日本はやっぱり自由で安全な国だと。島国で同じ民族だから、隣近所がたいがい気心は知れている。戦争はしたけど、植民地や属国にならずに、戦後はなんとか平和に過ぎてきた。だからダルクみたいなアウトローの人たちの集りを認めていける訳だ。

その限りにおいて、僕たちヤク中は国に感謝すべきだよ。ただ、昔から日本人の横並び意識は変わらない。出る杭は打たれるし、本気で強い個性を發揮しようとするばうとまれ、ひどい時は潰される。いじめ問題が典型だな。そういう意味では一億総共依存国家で、みんながもたれあう。国や世間の仕組みからして自立しにくいんだ、この日本という国は。

でも、僕らの病気は最終目標が依存の反対の自立だから、自分の足で立って地域社会で生きていく。自分たちのことは自分たちの考えでやろうぜ、ってね。そんな当たり前のことを一生かけてやっていく訳だから、そりゃ回り道もするし、何度か失敗もする。ダルクはそれを人間の弱さとして当事者同士がお互いに認め合いながら、成長していく居場所に過ぎない。ここに社会のルールや常識をそのまま持ち込んだら、ダルクなんか成立しないよ。

●線引きのない曖昧なところで救われてきた

一個人的にはそこのところが好きなんです。常識を超えたところに新たなビジョンを感じます。

近藤 それは買い被りじゃないか。そういう国や世間の仕組みみたいなものから、ある意味では距離をおいてやっているから、ダルクで救われるんだろうな。何たって依存症の世界はグレーゾーン、明日はどう転ぶか分からないから、曖昧な度量がなくてはいけないんだよ。ここを線引きしちゃうと、おかしな方向にいっちゃう。そこは難しいよね。



僕は線引きがなかったからダルクは良かったと思ってる。線引きがある仕組みの中で、ダルクなんかやったら、みんな刑務所に戻っていくよ。ダルクは線引きのない曖昧なところだったから救われてきた面がある。これは大事なことだと僕は思う。例えばダルク内で薬物使用が発覚しても、ダルクは治療・回復の場だから警察に通報しないとかの判断がなされてきた。本来は通報すべきところだけど、ダルクにいるということは、こいつはクスリをやめたいからいるんだから、という微妙なさじ加減の判断ね。そういう施設の懐の広さや度量というものを、責任者が持っていないと行き詰っちゃうよ。こんな綱渡りの活動は難しいよね。ふつうならトラブルなんて嫌だし、面倒だから避けちゃう。警察にゆだねる方が手っ取り早いし、楽なわけだから。

●期待を集めて入寮した人が早く死んじゃう

近藤 でも、そうすると入り口を狭くする。問題を起こす人は願い下げだよってね。確かにそれって一番簡単でいいよね。人を選別するには綱を掛けて、ふるいに掛けりゃあいい訳で、そうして残ったのは誰か？ 金か銀か銅か分からないけれど…。ところが、現実はそのはいかないんだよ。もともと問題の無い人、珠玉のような人なんて絶対にダルクには来ない。結果、ろくな奴しか残らない。だけど、そこがダルクの面白いところで、せっかく餞別されて、回復への期待を集めて入寮した人なんか、意外に早く行き詰って死んじゃうんだ。逆に、ふるいから漏れて残った奴の方が命を長らえて回復のレールに乗ったりする。こればかりは分からないんだよ。だから面白いとも言える。 (次号に続く)

全国受刑者の皆さんからの手紙～潮騒通信「どっこい生きてます！」を読んで

■本人にやめる意志がある限り寄り添って支えて

栗原さん。体調が良くないとの事でしたが、送って頂いた潮騒通信に元気な姿を見つけ安心しました。潮騒には色々な人が来るので、様々な問題があり、気苦労が絶えないと思います。回復途中でのスリップについてですが、本人にクスリをやめる意志がある限り、寄り添って支えてあげてほしいです。薬物経験のない一般の人には理解しづらい難しい部分だとは思いますが、依存症者の立場からすると、やめたいのにやめられずにいる苦しい気持ちを理解してもらえたりすると心強く感じるし、経験者のアドバイスは心にも届きやすく、とても素直な気持ちになる事ができます。僕もあきらめかけた人生をもう一度やり直す希望を潮騒 JTC に貰っています。

(北海道 K・Y)

■意志の弱さを自分で改善することの難しさを痛感

私は平成 20 年に初めて覚醒剤使用で捕縛され、過去に窃盗で執行猶予中であつたために計 4 年刑務所にて服役を余儀なくされ、その際に潮騒 JTC の噂を友人に聞き、今回初めてお便りさせて頂きました。その後は幾度となく資料と共に励ましのお便りを頂戴し、服役中は心の支えとなり、恩義に感じていました。22 年 6 月に出所しましたが、服役中に誓った薬断ちを、もろくも 2 カ月で断念し、また覚醒剤に手を染め、またもや捕縛されてしまいました。今は拘置所にて反省と後悔の日々を送っています。私の過去の過ちの第 1 は、自分 1 人の力で覚醒剤を絶てると軽く考えていた事、第 2 は出所後に栗原代表の潮騒 JTC に入寮しなかった事だと思いました。やはり己の意志の弱さを自分で改善することの難しさを痛感し、今度こそは心底薬を止めると心に誓い、こうして手紙を綴らせて頂いた次第です。

(東京都 S・Y)

■キリスト教の教誨を受けながら般若心経を写経

…日々の生活ですが、大きな変化はないものの、やはり工場では班長という立場の苦労に日々葛藤しております。団体生活だけに、色々な人達がいる刑務所内で自分の事だけをやっていれば良いという立場ではなく、良くも悪くも常に人と接していなければならない事による気苦労は大変です。それこそ「今日一日」を自分なりに精一杯やっているだけで、後は何もありません。人の気持ちを考え、時々己を自省して、また明日頑張るだけです。宗教活動ではキリスト教の教誨を受けています。年に 3

～4 回しかないのでも少し残念です。職業訓練は自分の希望が見つからず（電気系があればいいと思っていたのですが）、クラブ活動は募集があまりなく定員も少なく受講できていません。現在は以前の便りで書いたように般若心経の写経を時々しています。キリスト教で般若心経というのもおかしいと思われるかもしれませんが、これは単純に筆ペンの練習をしたかったためで、中味の文言は今一つ意味も解らないままやっています。かくいうキリスト教の方もあまり理解してはいないものですから、全て中途半端で神様にははしかられてしまうかもしれません。外に出たら聖書を手に入れて少し勉強してみたいと思っています…。

(北海道 K・K)

■刑務所工場は薬物をやめると言える風潮がない

丸 1 年送っていただいている潮騒通信に、栗原さんが弱音や愚痴の類の話はなかったので、精神的な不調が書かれてあつた少し前の号には驚きました。回復を遂げて施設運営を立派にやってらっしゃる栗原さんのような人でも、時にはそういう状態に陥るのですね。ところで個人の意見ですが、覚醒剤の再犯者ばかりいる刑務所工場では、普段から薬物を絶対にやめると胸を張って言える風潮ではないので、出所後せっかく施設に繋がっても、ここの延長になってしまう人が多いのではないのでしょうか。

(北海道 I・K)

■迎えに来てくれることがどんなに心強いことか

…正直言って出所したその日に薬を使うことが度々あり、こうして栗原さんが（刑務所まで）迎えに来てくれるということが、私にとってどんなに心強いことか…。この熱い思いを忘れることなく施設で頑張り、みんなと協力して薬を断ちたいと思います。もともと寂しがりやの性格で薬に頼っていた一面もあるので、私にとって同じ目標を持った仲間が居てくれるというのは、とても良い環境であると思います。

(北海道 I・H)

■刑務所は一日も早く出た者勝ちの風潮がある

覚醒剤取締法違反で 4 度目の逮捕となった今回は、2 年 4 カ月の実刑判決。さすがにもう家族からは完全に見放されており、出所後も厳しい道を覚悟しています。とにかく「薬物を止めたい!」。これが私の偽らざる本心です。しかし、毎回刑務所に入るたび、覚醒剤事犯者とながりが出来てしまい、出所後、そこから物を仕入れ、射ち込んでしまう状況です。(以上第 1 信、以下は第 2

信) …潮騒通信を見て「反施設」行為に出る人がいると知って驚き、心悲しくなりました。その行為を起こす当事者にも様々な思いや言い分があるのかもしれないけれど、やはり人の善意を踏みにじる行為はだめだと思う。直接お会いしたこともない私が、こんな綺麗事を言ったところで信じてはもらえないか…。「仮釈狙い」での入寮者が増えているとのことは何となく理解できてしまう。刑務所という場所は一日も早く出た者勝ちみたいな風潮があるため、どんな手段でも「柄受け」を確保しようとする人間が多々います。 (東京都 A・M)

■パクられたより仲間を裏切った後悔の方が大きい

…裁判で検事に「あなた酒をやめると言いますが、酒をやめる根拠は？」と訊かれた時、施設にいながら隠れて酒を飲んでいたことを思い出し、とても心痛かったです。正直に言うと、今まではバレなければいいだろうと思って飲んでいました。でも、こうしてパクられてみると色々と考えます。酒を飲んで暴行でパクられたことに対する後悔よりも、施設の仲間を裏切った気持ちの後悔

の方が大きいです。でも、こんな俺を施設長が「見捨てない。また施設に受け入れる」と言ってくれた時、本当嬉しかったです。もう、バレなかったらいいという歪んだ気持ちは捨てます。 (茨城県 F・K)

■性的な快感を得るためにクスリを使い続けていた

…クスリを使っている人の多くは気持ち良さを求めて繰り返し使ってしまうと思います。僕の場合は特に性的な快感を得るために使い続けていました。イライラして怒りっぽくなったり、訳もなく急に不安になったり、クスリに振り回された生活で心も体もすごく疲弊していました。クスリのせいでさんざん嫌な思いをしてきたはずなのに、それでも体はクスリを欲しがります。覚醒剤の良さを知ってしまったので、この欲望はずっとなくならないと思います。でも、こんな気持ちをしっかりとコントロールできるように、クスリなんかよりもっともっと楽しい何かを見つけて、残りの人生を過ごしたいです。潮騒を経て1日でも早く自立して当たり前の生活を取り戻すことが、今の僕の目標です。 (北海道 K・Y)

5月のお題「鯉のぼり」

しおさい俳壇

～選者＝桐本 石見先生～

親子子供心の鯉のぼり

(長吉)

鯉幟は日本では江戸時代に吹流しから今の鯉の形になったが、謂れは中国の黄河の竜門の滝を登れたのは鯉だけで登ると竜に変身した故事に因り、武士の男児の出世健康を祈願した。親の思い、子の思いは異なるかも知れない俳諧の面白い句。

青空にボンズレハムか鯉幟

(ボチ)

ボンズレハムは骨の無いハムのこと、逆に骨のあるハムはあまり見掛けませんが、鯉幟がハムの様だと云うのも面白い句。

鯉のぼり季も移れる湖の風

(エソ)

日本には四季があり、それに縁る自然の移ろい生活、文化、思いなどは独特なものがありますが、鯉幟を祝うのもその一つ。秋でも良いのですが、青葉や田植えの頃の活力ある五月が叶っている。湖の風も初夏を思う清々しい句です。

孫の家に我の贈れる初幟

(カツチャン)

端午の節句に男児の出生を祝って立てる幟を云い、初幟は、初孫の意も込めている。田舎などでは十メートル余の物に、定紋(じょうもん)、武者絵などを描く。鯉幟とは別で、都会では部屋用もある。どんな幟を贈ったのか、孫を祝う明るい句です。

奥利根を渡して泳ぐ鯉のぼり

(ヒロ)

原句の溪谷を「奥利根」に変えましたがこれで景の見える大きな句になりますし、出来れば自分の見た地名があると旅の記念にもなって、読者に句を彷彿させることが出来ます。

鯉のぼり色取り取りの思い出も

(トム)

鯉幟に限らず子の日の思い出は多くありますが、鯉幟は高く見えるので、家庭や時代の悲喜交々も込めて子の心にも残ります。鯉幟は黒が父、緋(あか)が母、青が子を表しますが、人それぞれに思い出もいろいろな色に例えられる。

鯉のぼり泳ぐ姿に子を思ふ

(カート)

鯉幟は昔は男児の節句の祝いの飾りでもあり、風に泳ぐ姿には夏の川や海で泳ぐ子供の姿も重ねて思いますが、昨今は子供の事件や少子化のこともあり余計に子供の事を思う。鯉幟の明るい反面にしみじみした句です。

しおさい俳壇・秀逸句コーナー

星空を見上げて泳ぐ鯉のぼり

(ユジ)

一般的に鯉幟は夜には仕舞うが、明日も快晴と判るとそのままか。ことにマンションなどの小型のものはペランダのまま。夜風に泳ぎながら星空を眺めるのもロマンチックでよいかも。鯉幟も竜になる夢を見て一夜を過す思いの微笑ましい句です。

晴天や家族の数の鯉のぼり

(カツミ)

原句は少し変えましたが、これで真鯉緋鯉(ひこいまこい)に子鯉の景が見えます、因みに子鯉は青色が古来でしたが、今ではカラフルで大きさも各種ある。今は子沢山も少ないが家族揃うことは何より幸せのことです。

二匹だけハマナスの丘鯉のぼり

(ひーさん)

このハマナスの丘は何処だろうか、森繁久弥の歌を思い出す。玫瑰(まいかい)の花は茨城県以北北海道に咲く可憐な紅淡色の花でバラにも似る。その丘に緋鯉真鯉の二匹が恋人の様に泳ぐのもロマンチックでいい句です。近くは潮騒公園や大小志崎にハマナスが咲く。

鯉のぼり離れし吾子に涙せる

(コウジ)

五月晴に真鯉緋鯉子鯉と家族の様に泳ぐのを見れば一般には快いが、人によれば離れた子や家族を思い哀しくなる。選者の父も戦死したが、今でも一度酒でも酌みたいと思うし、祖父が揚げてくれた古い大きな鯉幟が懐かしく、この句にも切々たる思いがします。

幼な日の親にせがみし鯉のぼり

(コバ)

何時の世もそうであるが、家庭の事情により子の望みどおりに買えない物がある。まして近所に大きな鯉幟が揚がると、子にも親にも切々たる思いがある。選者も父、祖父、祖母の死後は惨たる生活であった。幸いに今は俳句など詠む毎日だが、句の作者の心情を思うと切ない。

施設職員の作品

おめでとう!!
今月の特選句です

仁淀川水面に泳ぐ鯉のぼり

(オノ)

仁淀川は愛媛県石鎚山を源流とし、高知県の土佐湾に注ぐ全長百二十キロ余りの四国第三の川。その何処かで川に渡した鯉幟(こいのぼり)を見ている。作者の故郷の思い出か、旅の句かも。清流と云われる四国の川に映える鯉幟の美しい句です。

鯉のぼり団地サイズの昭和の世(ヨシハル)

鯉幟も戦後暫くは裕福な家庭で揚げられていたが、復興に合せお雛様と共に祝う様になり、都会の団地にも飾られるサイズが売られる様になった。団地の名とともに昭和を偲ぶ句です。昭和は戦争と復興、団塊の世代で鹿島開発もその一例。

幼子の背なに余れる鯉のぼり

(ユタカ)

鯉幟を買って貰ったの帰りの景か。今では団地サイズのもあるので子の望みどおり買いつけ帰るが、それでも子の背に余る。おりからの風に鯉幟が泳ぎ出しそうになる、微笑ましい一句です。

マンションペランダ狭し鯉のぼり

(稔)

昔は大きな農家や都会の一部でも見られた大きな鯉幟は今では余り見れないが、代わりには川や谷に何百を連ねる鯉幟が見られたりする。加須市のは百メートルもあるが、マンション用の小型のも多くある。ペランダ狭しと泳ぐ鯉幟も現代の家族生活を思い、微笑ましい景の句です。

Information

行事予定 (6月~7月)

- 6月17日 新宿とまりぎアルコール相談業務
- 20日 船橋北病院ソフトボール大会
- 21~23日 北海道ダルクフォーラム
- 23日 潮騒家族会 24日 潮騒誕生会
- 25~26日 潮騒夏季キャンプ (土浦市)
- 27日 潮騒俳句会 (しおさい俳壇) 6月例会
- 28日 潮騒映画鑑賞会
- 7月2日 ファイザープログラム事務局広報取材来所
- 5日 ファイザープロジェクト就労支援実践講座
- 12日 第1回ファイザープロジェクト推進委員会
- 14、20日 秋元病院メッセージ

献金を頂いた方 (6月15日現在)

- ▼小岩井商事 (株) 小岩井重光様
- ▼梅島クリニック 和田龍蔵様
- ▼内堀 高良様
- ▼石井照明様

献品を頂いた方 (6月15日現在)

- ▼堀内 誠様

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

【施設側からのお願い】潮騒JTCでは使わなくなった中古パソコン、中古の車いす等の献品を求めています。施設での回復活動や日々の生活、就労支援活動などに必要なので、ご協力をお願いします。



編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム (中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

車上荒らしの被害に遭った。取材用のデジカメ (一眼レフ) や録音機、手帳、取材メモ帳、銀行カードなど大事なものが入ったデイパック (リュックサック) を盗まれ、落ち込んでいる。本通信用の写真データの入ったメディアも含まれ、今月号の発行が遅れてしまった。急いでいたとはいえ、コンビニ駐車場で盗まれるとは…。ドアロックはしていたものの、窓を3分の1程開けていたのがいけなかった。言い訳はすまい。皆さんもご用心を。鹿島神宮で厄除け祈願でもしよう。(市)

今月のベストアングル



発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 (会費に含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。